

# 大原美術館を訪ねて

国際日本学部 国際文化交流学科2年 西川 美咲

私たち島川プレゼミのメンバーは、9月3日に実施された旅行業の国家資格である国内旅行業務取扱管理者試験を全員で受けました。そこでは、国内観光地理の科目があり、全国の観光地に関する問題が出題されます。そこで学習した観光地で行ってみたいとゼミメンバーが思ったところになり、9月15日に岡山県倉敷市にある大原美術館を訪れました。

大原美術館は岡山県倉敷市美観地区に位置し、江戸時代から大切に残されてきた木造建築が建ち並び、柳が川の両側で揺られている美しい景色に溶け込むように所在していますが、それとは少し異質な雰囲気も持ち合わせています。ローマ時代のイオニア式を模した正面玄関が来館者を迎え入れます。このこだわりのある正面玄関は岡山県出身である薬師寺主計やくしじかずえが設計したもので、当時としては珍しい鉄筋コンクリートを用いた丈夫な造りであり、開館から90年経った今でも大原美術館を支えています。

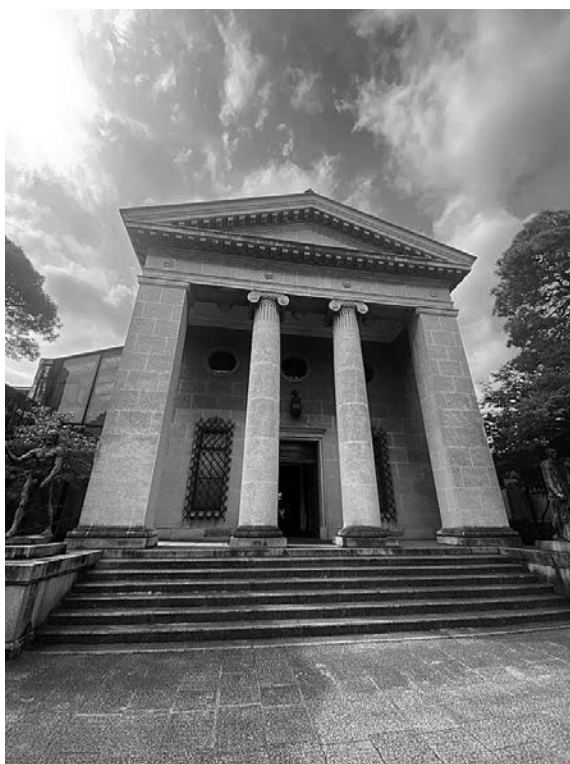
大原美術館は大原孫三郎が画家の児島虎次郎を記念して作った日本最初の西洋美術中心の私立美

術館で、本館、工芸・東洋館、そして現在休館中の分館の三つから成り立っています。美術の才能を認められた児島虎次郎は、孫三郎の支援の元、三度渡欧し制作に励む傍ら彼自身の目で観て選んだ西洋美術作品を倉敷の地へ持ち帰ってきました。大原美術館ではそれらの素晴らしい作品が多く展示されています。先述のこだわりのある正面玄関を抜けて本館の二階を進んでいくと、右手に飾られていたのがエルグレコの受胎告知でした。薄暗い空間に飾られた受胎告知の作品からは、作品の背景に描かれた雷が今まさに落ちてきているようで、私はこの作品を見た時、マリア様が受けた衝撃を共感できたような気がしました。西洋美術作品の展示がほとんどでしたが、中には21世紀の新しい雰囲気の作品が展示されていたり、小学校や中学校の教科書等によく載っていて誰もが一度は見たことがあるであろう、あの有名な『麗子微笑』を手掛けた岸田劉生の作品が展示されていたりと、西洋美術作品以外の幅広いジャンルを楽しむことができます。また、それらの作品を持ち帰ってきた張本人である虎次郎の作品も何点か展示されています。彼が影響を受け持ち帰ってきた

た作品から取り入れられたであろう西洋の様式を用いられた作品は、観ていても新鮮であり虎次郎という人物について作品を通して感じることができたような気がしました。

大原美術館を設立した大原孫三郎は、美術館のほかにも倉紡中央病院や私立倉敷補修学校をはじめとした市民のための公共施設や、有名な学者や作家などを招いた「日曜講演会」の開催も行い、倉敷のために尽くした人物でした。周辺の街並みも彼によって発展していったのです。そんな孫三郎の本邸は大原美術館の川を跨いだ向かいに建っています。私は今回訪れることができませんでしたが、美観地区として現代まで大切に残されてきた街の発展に大きく貢献してきた孫三郎という人物について触れてみるのも面白そうです。

今回大原美術館を訪れたことによって倉敷という地域についても知ることができました。ぜひ皆様も倉敷へ訪れる機会があれば、大原美術館を覗いてみてください。きっと沢山の発見が待っています。



ギリシャ神殿のような外観の大原美術館

### 参考文献

- 大原美術館ホームページ  
<https://www.ohara.or.jp/>  
最終閲覧日2023年10月8日
- 岡山の歴史的土木近・現代建築遺産  
<http://civil-archi.okayama.jp/hyakusen/90/>  
最終閲覧日2023年10月8日

美しい倉敷の街並みを歩くゼミ生たち

